

## 避難所運営ゲーム(HUG)で多様性センスを磨く！

刈谷市産業振興センターでHUG（避難所運営ゲーム）をアレンジしたセミナーを行いました。避難所には様々な人が避難してきます。さあ、どんな対応をすれば良いのでしょうか？

### ☆避難所運営ゲーム（HUG）とは？

HUGはH：避難所、U：運営、G：ゲームの頭文字をとったもので、静岡県が作成しました。水・電気・ガスが止まっている中で、次々と地域に住んでいる人をはじめ、旅行者まで避難所である小学校へ避難してきます。それだけではなく、市の対策本部からも数々の指示が来ます。

ゲームの参加者は、その避難所を運営するチームです。チームで、避難者には体育館の中や教室のどこに入ってもらうのか、水は？食料は？トイレは？さまざまな課題を解決していきます。

### ☆どんな人が避難してくるのでしょうか？

健康な高齢者、寝たきり、痴呆症の高齢者から、乳幼児を連れた若い母、両親を亡くした子ども、糖尿病や高血圧症で薬がなくなってしまった人、外国籍の人、バス旅行でたまたま地震にあった人々などが登場します。特別な人々ではありません。ふと住んでいる地域を見まわすと同じ地域で暮らしている人々です。



乳幼児を抱えた女性が、夜泣きをするので、迷惑を気にして、半懐の自宅に戻ると言ってきた。  
(夫は行方不明)

### ☆多様性のセンスを磨く？

避難してくる様々な背景の人々への対応を考えながらゲームを進めます。どんな言葉をかければいいのか？どんな配慮をすればいいのか？報道にはどのように対応するのか？などなど実際の避難所で起こったトラブルも共有しつつ進めます。また、今回は名古屋市消防局の避難所運営マニュアルの仕様書も活用しました。

### ☆参加した感想は？

- ・とても重い課題を背負った気がします。終わってからも、あの対応で良かったのかずっと考え続けています。
- ・多様性を受け入れながら一つ一つ結論を出していく上で情報を持ち合わせていないことに気づきました。

などの深い考察を促す感想をいただきました。